



熊本再春荘病院医療連携室だより

再春



平成28年 第2号

発行所：熊本県合志市須屋2659番地
熊本再春荘病院
編集：医療連携室

KUMAMOTO SAISHUNSO NATIONAL HOSPITAL

熊本再春荘病院ホームページ <http://www.k-saisyunsou.jp/>



前回に引き続いて、当院入院中の筋ジストロフィー患者のI様が、口でマウスを操作してコンピューター・グラフィックを作成して頂きました。五重塔が大変美しく描かれています。I様、どうも有り難うございました。

病院の理念

わたしたちは
患者さまひとりひとりの人権を尊重し
思いやりの心を持って
安心と信頼の医療を
提供します

病院運営の基本方針

1. 患者さま中心の医療
2. 専門知識及び技術の向上
3. チーム医療の推進
4. 地域医療連携の推進と地域への貢献
5. 経営基盤の安定

Contents

- | | |
|-------------------------|----|
| 1. 院長あいさつ | 2 |
| 2. 診療支援部長就任あいさつ | 3 |
| 3. 診療支援部補佐就任あいさつ | 3 |
| 4. 熊本地震における当院の対応 | 4 |
| 5. 診療科紹介【整形外科】【神経内科】 | 5 |
| 6. 竹あかり | 6 |
| 7. 看護の日 | 6 |
| 8. 医療マネジメント学会報告 | 7 |
| 9. 開放型病院登録医紹介【さくらクリニック】 | 7 |
| 10. 市民公開講座報告 | 8 |
| 11. 再春荘カンファレンス予定表 | 8 |
| 12. 新任教員紹介 | 9 |
| 13. 新任医師紹介 | 10 |

地域医療の復興を目指して

病院長 米村 憲輔

新緑の眩しい季節となりました。平素より皆様方には医療連携に多大なご協力、ご支援をいただきまして厚く御礼申し上げます。

まず今回の熊本地震で犠牲になられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に一日も早く以前の日常生活が戻ることを願っております。また被害を受けられた関連施設の皆様には心より御見舞申し上げます。

今回の地震はまさに青天の霹靂でした。連夜の震度7という前代未聞の出来事には、あらためて自然災害予測の限界を感じずにはいられませんでした。今回は布田川断層帯、日奈久断層帯という2つの断層が連続して動いたことで大きな被害に繋がりましたが、世間にはこのような断層移動が切迫している認識はなかったはずです。昨今、地球温暖化による大規模な気候変動の予測が成されていますが、今回の地震の教訓から常に防災意識を持つことの重要性を学びました。現在、道路や橋などのインフラは徐々に回復していますが、益城町を中心に多くの方々が未だ避難生活を送られています。各方

面での復旧、復興が早急に軌道に乗ることを願っております。

当院も震度5弱および震度6弱の地震に襲われました。幸いなことに患者様および職員に人的被害はなく、建物や医療機器にも大きな被害はありませんでした。また多くの職員が自らも被災して大変な中、いち早く病院に駆けつけ診療に当たってくれました。その御陰で震災後も一貫して診療が継続できたことに改めて感謝致します。

さて、既に「診療のご案内」にて報告致しましたが、今年度も6名の医師が退職異動となり、新たに7名の医師を迎え新体制となりました。これまでと同様に各診療科間で円滑な連携を維持しながら診療に当たってまいります。未だ余震は続いており、各関連施設の皆様は大変な中で日々診療に当たっておられると思います。当院としては、このようなときにこそ職員一丸となって地域医療支援病院としての責務を果たし、震災後の地域医療の復興に向け全力で取り組んで参る所存です。今後とも引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

診療支援部長就任あいさつ

外科部長 大原 千年

昨年 10 月より診療支援部が組織され、診療支援部長を拝命しました大原です。診療支援部とは、これまで独立して活動していた地域連携室をはじめとする各部門が、地域医療連携・在宅医療支援・医療相談・診療業務支援・診療情報管理の各担当として再編成されたものです。良質な医療を提供するためにも診療支援は不可欠で、医療が高度化・複雑化していく一方で、患者・

患者家族への配慮もさらに必要とされる中、診療支援のニーズはますます増加する一方だと考えられます。これまで同様、今後も病診連携・病病連携をはじめとして様々な形での診療支援の充実を図っていきたいと思います。何かお気付きの点や、ご要望などございましたらいつでもお申し付けください。今後とも診療支援部を宜しくお願い致します。

診療支援部補佐就任あいさつ

副看護部長 柳澤 あけみ

この度、前任者の転勤に伴い平成 28 年 4 月 1 日付で、診療支援部補佐に就任しましたので、一言ご挨拶申し上げます。

当院は、平成 24 年 8 月 1 日に地域医療支援病院に指定され、熊本県北地域の医療の中核病院として役割を担っています。先日の熊本県を襲った震災では、発生後から 1 週間で 445 名の救急患者の診療を行い、救急車の受け入れが 92 件、そのうち 45 名が入院しました。避難入院患者として筋ジストロフィーの患者を中心に 28 名を受け入れました。

今年度の病院目標にも「医療連携の強化」

が挙げられています。それぞれの医療機関が連携して、機能を十分に発揮できるよう努めていく必要があります。看護体制としても今年度 4 月から常勤看護師を 2 名増員し、地域連携の充実に努めてまいります。また、熊本再春荘病院地域医療連携（看看・看介連携）連絡協議会を年 4 回開催予定です。今年のテーマは「神経難病」です。

今後も益々近隣医療機関と連携を充実させてまいりたいと思いますので、今後とも皆様からのご指導を何卒よろしくお願い申し上げます。

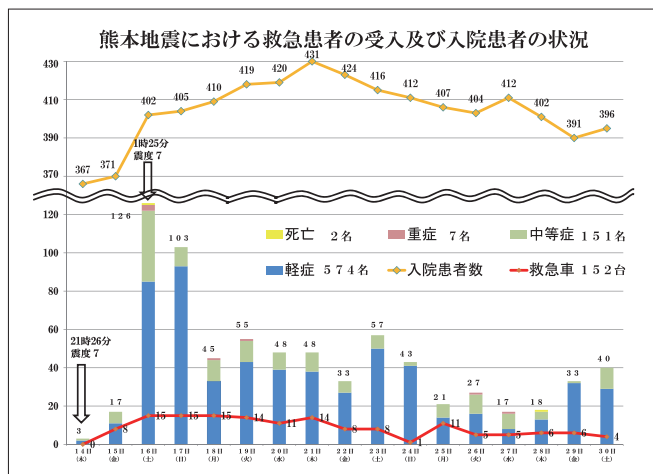
熊本地震における当院の対応について

事務部長 南 孝春

この度の熊本地震により被害を受けられました医療機関、施設の方々には心よりお見舞い申し上げます。

震災後2ヶ月以上経過した時点で振り返って見ますと、菊池医療圏をはじめ近隣医療機関との病病・病診連携の重要性を改めて認識させられた出来事となりました。

震災当時における当院の状況は、4月14日(木)21時26分の前震では通常と変わらない程度の救急外来の受診状況でした。4月16日(土)の本震以後、急激に受診される患者さんが増加し、通常の受付体制では対応が不可能となりました。職員自身も被災している中、速やかに病院に駆けつけて貰えたことから、病院玄関にトリアージセンターを設け来院される患者さんの対応に当たることができました。



来院される患者さんの中には、当院では対応出来ない頭部外傷等の患者さんも含まれており、熊本市内の高度急性期病院が受入不可能であったことにより、遠くは荒尾市民病院へ転院搬送を行った事例もあったところです。

当院の転院受入の状況としては、菊池市内の医療機関が避難勧告を受けたことから4名を受入し、建物被害が甚大であった熊本市市民病院からも2名を受入しました。本来であれば、当院で受診すべき重症心身児の患者さんが国道57号線の通行止めにより阿蘇医療センターで受診されたことから、ドクターヘリによる転院受入を行ったものもありました。

また、熊本地域医療センターが被災したことにより小児救急体制が危ぶまれたことから、小児科医の自発的な申し出により、夜間帯においても診療が出来る体制をとりました。一方で小児対応の看護師が不足しましたが、熊本市市民病院のご厚意により4月19日から5月8日までの間、看護師を派遣して頂き対応できました。

院内の状況ですが、当院は地下水により上水を賄っていることから、地震の影響により地下水が汚濁し飲

用水として使用が出来ず、水の確保を如何に行うかが重要な問題となりました。当初は、納入業者の協力や自衛隊の援助により最低限の水は確保出来ましたが、継続的な確保までは至らず、併せて備蓄している食料も底を着いて来たことから食料の確保も不安を抱える状況となりました。しかし、機構本部(九州グループ事務所)のご尽力により、国立病院機構のネットワークを用いて、遠くは中国四国グループ(四国こどもとおとなの医療センター(香川県)等)より水・食料等の確保を行い、福岡県の大牟田病院に物資供給の中継基地を設け、熊本県内4施設へ物資供給が行われたことで非常事態を脱することができました。



建物等の被害については、一部壁の損傷等はありませんでしたが、診療に大きな影響を及ぼすものではなく、手術室についても、業者点検のうえ18日は稼働させることが出来たところです。なお、一部の大型医療機器(MRI)については応急処置を施したものもありましたが、診療には影響がなかったところです。

職員の勤務状況は、職員自身も被災者であることから、車中泊をしながら勤務していた職員もあり、疲弊していたことで交代要員の確保を行う必要が生じました。国立病院機構のネットワークによる九州管内の他施設(6施設)から看護師、薬剤師の派遣応援者を頂いたことで、診療が滞ることがなかったところです。

想定していなかった点として、小中学校の閉鎖による小学生の子供さんがいる職員の勤務体制でしたが、看護部の発案による保育士のボランティアの確保が出来たこと及び療育指導室職員の協力のもと、臨時に院内学童保育所を設けることで問題の解消が図られたところです。

最後になりましたが、協力して頂きました医療機関の皆様方及び職員の皆様に厚く御礼申し上げます。

診療科紹介 No.2

整形外科のご案内

整形外科部長
緒方 宏臣

整形外科は現在米村院長はじめ専門医5名、専修医1名体制で診療を行っております。主に運動器（骨・関節・筋肉・靱帯・腱・脊髄・神経）の病気や外傷（ケガ）を治療しています。高齢化社会を反映し骨粗鬆症に伴う骨折（大腿骨近位や橈骨遠位）の手術や圧迫骨折の急性期治療が多くなっています。また、変性疾患に対しての関節鏡手術（膝の半月板損傷や肩の腱板断裂など）や変形性関節症に対する人工関節手術（膝、股、肩）にも力を入れています。運動機能の回復を目的として早期のリハビリテーション開始を目指し、術後早期の疼痛コントロールにも最新の知見を応用しています。超高齢者の骨折においても、残った機能を最大限に活用して、元の状態に出来るだけ近く機能を回復させることを目標に、リハビリテーション部、看護部ともにチーム医療に取り組んでいます。

担当医／曜日	月	火	水	木	金
米村 憲輔			(手術日)	○	
緒方 宏臣	○			○	
山下 武士		○			○
岩本 克也	○				○
川谷 洋右		○		○	
浦上 勝	○				○

診療科紹介 No.3

神経内科のご案内

副院長
上山 秀嗣

神経内科は現在専門医5名をはじめとする医師8名体制で診療を行っています。主に頭痛、めまい、しびれ、脳卒中、けいれんなどの急を要する病気に加え、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症（ALS）、筋ジストロフィーなどの神経筋難病のケアを含め非常に幅広い病気をみています。最近、テレビCMでもおなじみになっていますが、“顔の片側がゆがむ”、“ろれつが回らない”、“片方の手に力が入らない”といった症状が急に起こった場合には、直ちに救急車で病院を受診されるべきです。なぜかと言いますと、脳梗塞を発病して4時間半以内では脳内の動脈にできた血の固まりを溶かす治療法があるからです。ちなみに当院では平日日勤帯のみですが、この治療法を行っています。症状から脳梗塞が疑われる場合には、まず病院にお電話をお願い申し上げます。また、神経筋難病に対するレスパイト入院を積極的に受け入れていますので、ご希望がありましたら地域医療連携室にご連絡下さい。

神経内科でできる治療法・ケア

- ① 脳梗塞に対する超急性期血栓溶解療法（平日日勤帯のみ）
- ② 免疫性神経疾患に対する免疫グロブリン大量静注療法
- ③ 片側顔面けいれんに対するボツリヌス毒素療法
- ④ ALS に対するラジカット®点滴静注療法
- ⑤ パーキンソン病に対する特殊リハビリ治療（LSVT®）
- ⑥ 神経筋難病に対するレスパイト入院
- ⑦ 胃瘻チューブの造設、交換
- ⑧ 人工呼吸器の導入、管理

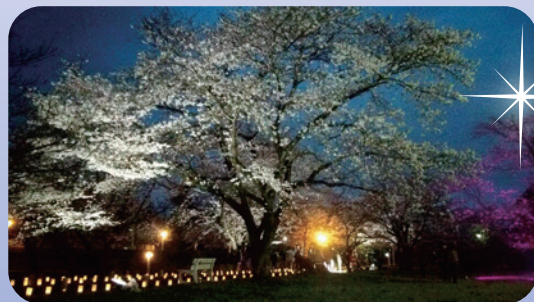
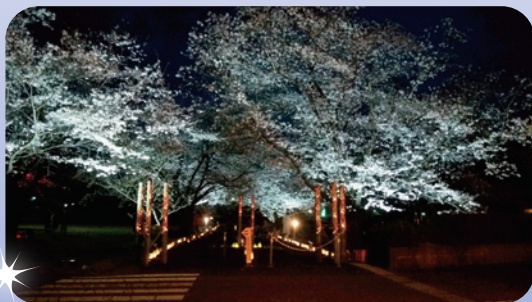
神経内科病棟医長：
岡崎 敏郎
同 病棟師長：
佐々真理子
地域医療連携室副師長：
笠 育美

光と竹が織りなす幻想的な 桜並木の竹あかりに魅せられて

小児科病棟部長 木村 由美

小児科病棟に入院している子ども達が、春休み期間中に竹あかり作成に挑戦しました。今年で三年目となります。電気ドリルを器用に使って竹に穴をあけ個性あふれるデザインを作り上げました。怪我をしないか心配でしたが、子ども達は楽しみながらも真剣に取り組んでいました。お互いに助け合い協力しあって一つのものを作り上げる喜びを感じたようです。3月30日には、病院正面玄関の桜並木も満開となる中、

桜の木をライトアップしました。竹のオブジェを並べ、ろうそくの明かりを灯すと、光と竹と満開の桜が織りなす幻想的な世界が広がりました。メインの竹には、“地域の元気と笑顔のかけはしを担う”というメッセージをいれました。熊本再春荘病院は素晴らしい桜の名所でもあります。竹あかりの温かいひかりが地域の住民の癒しとなり、熊本再春荘病院の未来を照らしてくれているようでした。



看護フェスタ 再春

つくし2病棟看護師長 緒方 公子

5月12日の「看護の日」にちなんだ活動として、5月10日 13:00～16:00 市総合健康センターユウパレス弁天で、「看護フェスタ」を行いました。当初、4月の地震被災もあり、開催を躊躇しましたが、この時期だからこそ病院という施設をでて、地元住民の方へ笑顔を届けること、健康への働きかけを行うことが看護師の役割ではないかと考えて開催しました。看護師は総勢14名で、実演体験コーナー（健康体操・手洗い）、計測コーナー（血圧・酸素飽和度）、相談コーナー（被災後のストレス、健康について）、パネルコーナー（人生の最後を決めるのはあなた自身・最後の医療）のブースに分けました。今年度は地震災害者に役立つ内容に焦点をあて、避難施設で発生した食中毒や感染性腸炎、また、車中泊で発生したエコノミークラス症候群の予防対策に力をいれました。来訪

者数は、103名。座ってできる健康体操では、音楽に合わせ身体を動かすと自然と笑顔がこぼれてきました。手洗い体験では、



チェックをすることで正しい手洗いの方法を体験されました。参加者の関心も高く、今後の生活の中で役立てたいという言葉が聞かれました。また、被災後のストレスを和らげる手助けをしたいと考え、来訪者との対話を大事にして、一人一人と被災のこと、その後の生活のこと、健康のこと、色々なお話を聞く時間をつくりました。看護部では「その人がより良く生きる」ことの意味を日々の看護ケアで考え、学びへと繋げようとしています。被災された住民の方は「自分らしく生きる」、「自分らしく暮らす」ことを取り戻すために奮闘されていました。今回の「看護の日」を通し、地域の方が、看護師をより身近な存在と感じて頂ければ幸いです。



感染防止リンクナース活動を学会発表しました!

感染管理認定看護師 田中 亮子

＜リンクナース、日本医療マネジメント学会へ＞

昨年度、当院看護部の感染管理部門では日本医療マネジメント学会第18回熊本支部学術集会に2題の活動報告を発表することができました。それぞれ、リンクナースが日頃自分の病棟で感染予防活動に取り組んでいる内容です。リンクナースは、その職場での感染予防活動の中心的存在です。病院内に感染症が拡がらないよう様々な予防対策に取り組み、患者様の療養環境を安全かつ衛生的に整えるべく日夜活動しています。私が感染管理認定看護師としての役割を果たしているのも、リンクナースという臨床現場の実践者がいるからこそだと思っています。

＜発表テーマ＞

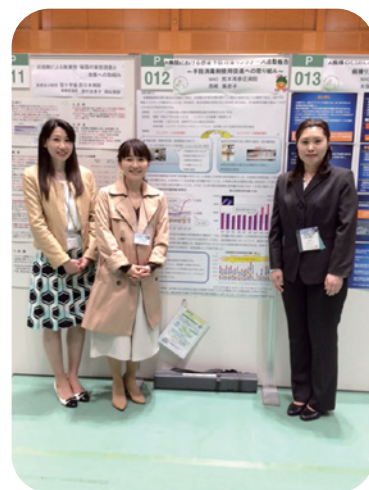
今回の演題は、リンクナース会が年間目標としている手指衛生の遵守率向上を目指した取り組み、「A病院における感染予防対策リンクナース活動～手指消毒剤使用促進への取り組み～」と、自分の病棟での感染発生を振り返った「A病棟のESBLs発生における病棟リンクナースの感染予防活動」の2題です。前者は各病棟のリンクナースが手指衛生の重要性と正しい方法を職員へ啓発した結果、アル

コール製擦式消毒剤の使用量が増加したとの報告でした。また、後者は病棟で複数発生した感染症をきっかけに、自分たちの感染予防対策を見直し、対策の徹底をはかり、現在でもその対策が適切に維持できているという内容でした。

＜更なる高みへ＞

発表後は、いずれもリンクナースが自己の職場の問題を解決するために、意欲的に取り組んでいるという内容について、良い評価を受けることができました。発表者も外部の学会で自分たちの活動を示す機会を得られたことは、今後の活動への更なる意欲につながったのではないかと思います。

熊本再春荘病院の感染管理部門は、これからも病院内のみならず、周辺地域の感染予防のためチームワークを高めて活動していきます。



開放型病院登録医紹介

さくらクリニック

院長／前田 哲也

熊本市北区麻生田5-13-8

TEL 096-337-3677 FAX 096-337-1312

診療内容／内科、小児科、呼吸器科、循環器科、アレルギー科、リハビリテーション

診療時間／午前 9:00～12:30
午後 14:40～19:00

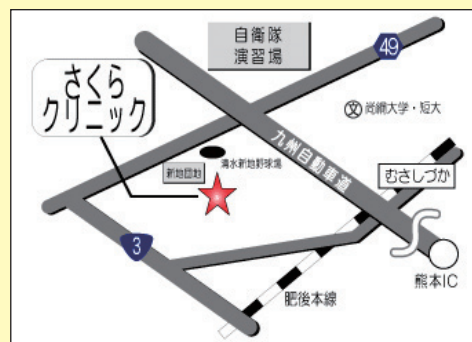
△…9:00～14:00

診察日	月	火	水	木	金	土	日
9:00～12:30	○	○	○	×	○	△	○
14:40～19:00	○	○	○	×	○	×	×

【休診日】木曜、土曜午後、日曜午後、祝日

さくらクリニックの前田です。平成6年に熊本市の新地団地の近くに開業し、既に22年近くになります。

当院では、気管支喘息をはじめ呼吸器疾患の方を多く拝見させていただいており、そのため胸部レントゲンを撮影する機会が比較的多く、その精密検査に胸部CTを熊本再春荘病院の放射線科に依頼することが多いのですが、その際の対応が大変迅速かつ丁寧で、当院の診療に非常に役立っております。あたかも当院の隣にCT室やMRI室があるような感覚になることもあります。これからもいろいろお世話になるとは思いますがよろしくお願いいたします。



市民公開講座を開催しました

経営企画室長 前田 光一郎

平成 28 年 2 月 28 日（日）当院多目的ホールにて、地域住民に対する健康増進への情報発信及び医療従事者の資質向上を図ることを目的として、市民公開講座を開催致しました。

今回は、当院大原外科部長より「大腸がんはこわくない～今できる診断と治療～」と、熊本県歯科医師会副会長小島先生、常務理事牛島先生より「がん治療と口腔ケア～がんを克服するためにできること～」と題し、講演をして頂きました。



大原外科部長の講演においては、食事の内容によっては大腸がんを発病するリスクが向上すること、及び当院で行っている手術、化学療法等を解りやすくお話を頂きました。

質疑応答では、普段何気なく食べているハム等の加工食品を毎日食べることでリスクが向上すると聞いたことで、食べることが出来なくなると過剰に考えられた方もおられました。通常の食事であれば問題はないと大原

部長より回答がなされると、安心されたといった一幕もありました。

副会長小島先生、常務理事牛島先生の講演においては、がんの治療で行われる手術、抗がん剤治療、放射



線治療に伴う口腔トラブルは、口腔ケアを行うことにより予防や症状を軽くする効果があるというお話を頂きました。普段、患者さんは、医科・歯科別々に受診されていることが殆どで、連携することによるがん治療の効果に驚かれた様でした。

また、アンケートの中には口腔ケアを1ヶ月に1回程度受診されている患者さんから、口腔ケアの度に歯が削られて細くなるのではと心配していたが、口腔ケアの重要性を始めて理解することが出来たことのご回答もありました。

今後も継続して市民公開講座を開催したいと考えておりますので、ご参加の程よろしくお願い致します。

再春荘カンファレンス予定表（担当科および症例検討会内容）

第3水曜日
19時から

H 28 年

7月	呼吸器内科 / 外科	11月	循環器科 / 整形外科
9月	菊池救急医療研修会 《特別講演》	12月	菊池救急医療研修会 《症例検討》 他施設症例
10月	神経内科 / 小児科		

H 29 年

1月	呼吸器内科 / 放射線科
2月	神経内科 / 外科
3月	代謝内科 / 小児科

再春荘カンファレンスは院内外の医師・医療関係者による勉強会です。最新の医学情報の提供や意見交換、医療連携のより良い構築を主旨に、症例検討会など毎月（第3水曜日・19時から）病院2階会議室において実施しています。皆様の御出席をお待ちしております。

新任職員紹介

副看護部長 柳澤 あけみ

平成 28 年 4 月に宮崎病院より赴任して参りました柳澤あけみと申します。5 か所目の転勤地ですが、熊本は初めてです。再春荘病院に初めて来たときは、桜が満開でとてもきれいで気持ちの良い印象を受けました。それから2週間後にまさか震災が発生するとは思ってもみませんでした。しかし、皆初めての経験の中で色んなことを思い、考えながら行動したことで乗り切ることができたと思います。これからも皆様のご支援をよろしくお願い致します。

教育研修係長 石橋 美枝子

大牟田病院から配置換えで教育研修係長となりました石橋です。

1 施設を短い期間で転勤しているため、今回の異動で5施設目となります。

熊本ではおいしいものを食べて、温泉を満喫したいと思っています(*。*)

教育の経験は全くなく、わからないことばかりで、ご迷惑をお掛けすることも多いかと不安でいっぱいですが、自分にできることを一生懸命頑張りたいと思っています。よろしくお願い致します!!!

西4病棟看護師長 吉村 ひとみ

この度、菊池病院から昇任でまいりました。これまで200床ほどの規模の病院でコソコソと外科や内科、精神科看護の経験を積んできました。再春荘病院のような規模の病院に勤務させていただくことは10数年ぶりです。規模もさることながら、広大な敷地面積にも驚きと、自分の力不足への不安ばかりです。そのような中、これまで経験したことのない大災害にみまわれ、混乱の極みというのが自身の現状です。しかし、病棟看護師長という重要な職責を命ぜられたからには、自分にできる可能な限りの努力をし、日々の経験やご指導を自分自身の糧にし、この再春荘病院のお役に立てようになりたいと考えております。

臨床検査技師長 佐々木 康雄

平成 28 年 4 月 1 日付で鹿児島医療センターより配置換えで参りました佐々木と申します。出身は熊本市で国立熊本病院(現熊本医療センター)に14年勤務後、転勤を重ね当院が11施設になります。いろんな施設を見てきましたが、院内に咲き誇る桜並木には圧倒されました。桜吹雪の中を出勤し、心も新たに頑張っていく決意が湧いてきました。私一人では無力かもしれませんが、検査科のスタッフと共に診療支援、チーム医療推進の一翼として病院理念の基、業務を取り組んでまいります。不十分な点も多々あるかとは思いますがご理解、ご協力のもとご指導、宜しくお願い致します。

管理課長 國分 克典

4月1日付けで小倉医療センターから着任してまいりました、管理課長の國分と申します。出身地は長崎県の対馬です。

病院に就職して、大分、佐賀、福岡、宮崎県の施設で勤務し熊本再春荘病院で12施設目となり、熊本県での勤務は初めてです。赴任早々、ストレスチェック、病院学会開催、職員手帳の更新及び病院機能評価更新の準備等、今年度の課題をつぎつぎと言われ大変な病院へ赴任してきたなと思っております。今回、初めて管理課の業務に携わることにになりますが、皆様にご迷惑を掛けないように早く仕事を理解して、職員皆様のお役に立てよう頑張りたいと思います。また、今年度から病院の建替えが始まるので、管理課としてサポートができるよう頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

東3病棟看護師長 清田 峰子

熊本医療センターから転任でまいりました、東3病棟師長の清田です。広々とした病院の敷地にさくらが咲き誇り、周囲の木々の新芽が美しく環境のいい病院だなと思いを寄せ着任しました。これからの新天地でのスタートを楽しみにしていた矢先に、14日、16日と震度7の熊本地震が発生。何もわからないまま慌ただしい業務の中、患者さまやスタッフの安全と健康を祈り余震が早く過ぎ去ることを願いやっとひと安心できるようになりました。一生忘れない4月転任となりました。皆さんにこれからもご迷惑をおかけするかもしれませんが、よろしくお願い致します。

診療放射線技師長 酒本 司

この度、熊本再春荘病院への異動を仰せつかり、嬉野医療センターより転任いたしました酒本 司です。私は炭鉱の街大牟田で生まれ育ち、熊本の地は学生時代と熊本医療センター勤務を含めると7年間住んでおりました。愛着のある熊本で勤務できる喜びと同時に初めての長としての職務に、その責務が果たせるかと不安を感じているのが正直な気持ちでございます。皆様には色々にご迷惑をお掛けすることが多々あるかと思いますが、一歩一歩、精一杯努力し、熊本再春荘病院並びに地域医療に貢献できるように最善を尽くす所存でございます。どうぞ宜しくお願い致します。

一日でも早く皆様の一員として仲間入りさせて頂きたく存じますので、宜しければ、色々引き回して頂ければ幸いです。

栄養管理室長 清水 三千代

小倉医療センターより赴任して参りました清水三千代と申します。北九州は、小倉生まれの小倉育ちで、熊本県に勤務するのは初めてです。主人を北九州に残し熊本にやってきました。再春荘病院の桜の美しさ、そして広大な敷地にびっくりしています。調理場とは言えば、とても古いのですがなかなか頑丈で地震にも負けませんでした。

私は、映画が大好きです。見に行く時間はあまりないのですが……。熊本に来る前に大好きなスターウォーズを4DXで見ました。少しでも早く慣れて頑張っていきたいと思っています。みなさんどうぞよろしくお願い致します。

新任医師紹介

神経内科医長
栗崎 玲一



4月より神経内科に赴任しました栗崎 玲一（くりさき りょういち）と申します。熊本県出身で平成11年に熊本大学医学部を卒業し、同附属病院神経内科、済生会熊本病院、国立熊本病院で研修医として研鑽を積んだ後、国立療養所宮崎病院を経て、前任地の国立病院機構熊本南病院では主に県南地区の神経難病（パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症など）の診療に長年従事して参りました。今回縁あって当院にてほぼ同様の仕事をさせていただくこととなりましたが、今までの経験を生かし、県北地区の神経・筋疾患の難病医療に貢献できるよう精進して参りたいと思います。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

呼吸器内科医長
松岡 多香子



前震、本震、余震と続き、被災された方、ストレス・疲れがたまっている方など多くおられることと思います。心からお見舞い申し上げます。2016年4月1日付けでお世話になっております松岡です。よろしく願います。卒業5年目より大学院を含め、しばらく免疫アレルギーの研究を行った後は、上天草病院、植木病院、熊本大学付属病院、2007年9月からは約1年間、熊本再春荘病院、2008年10月からNTT西日本九州病院（2012年10月1日より「くもと森都総合病院」に名称変更）に勤務しておりました。事務系の方も含めてアットホームな雰囲気の中、落ち着いて診療できる働きやすい病院だということで、もう一度勤務したいと思っておりましたが、熊本大学医学部・呼吸器内科・興格教授のご高配で、当院へ戻していただきました。今まで学んだことを生かして少しでもお役に立てるように、そしてこちらでもたくさんの患者様、先輩方から多くのことを学んでいければと考えております。趣味でアロマテラピーアドバイザーの資格を持っております。興味のある方と、その話もできればと思います。どうぞよろしくお願い致します。

神経内科
本多 由美



神経内科の本多由美です。出身は神戸ですが、山口、オランダ、大分などを経て、実家が南阿蘇に移ったことをきっかけに熊本に落ち着きました。趣味は散歩、伝統工芸めぐりです。なかなか難しい病気が多い神経内科ですが、皆様と一緒に向かっていきたいと思えます。何でもお気軽におたずねください。どうぞよろしくお願い申し上げます。

呼吸器内科
中嶋 啓



4月1日より熊本再春荘病院 呼吸器内科医師として御世話になっております中嶋啓と申します。趣味は格闘技（日本拳法）とドライブと家族サービスです。前任地は宮崎県立延岡病院で、内科医として様々な疾患に対する診療を経験させて頂きました。熊本再春荘病院では呼吸器内科医として診療を行うことで地域の皆様の疾患治療や健康増進に貢献できればと考えております。よろしくお願い致します。

小児科
榎木 仁



この度、4月1日付で小児科に赴任しました榎木 仁と申します。就任からおよそ2か月が過ぎ、科の全体像が次第にみえるようになるにつれ、あらためて当科の地域や熊本県における役割の重要性を再認識しております。まだまだ非力な面もあるかと思いますが地域の患者様の健康に貢献できるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

整形外科
浦上 勝



2016年4月より整形外科医として勤務することになりました浦上勝と申します。熊本大学病院で初期研修後、熊本大学整形外科に入学し、その後は、熊本市市民病院で3月まで働いておりました。赴任して1カ月がたち、再春荘病院は経験豊富な先生方が多く、他科の先生方や他職種との連携が非常に良いという印象を持ちました。4月の震災で大変な思いをされていると方々が大勢いらっしゃると思いますが、地域の皆様の健康に貢献できるように努力していきたいと思えます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

放射線科
遊佐 瞳



熊本大学画像診断治療科（放射線科）に入学し、1年間の大学病院で後期研修ののち、本年度より再春荘病院へ異動となりました。放射線科の遊佐と申します。大学病院ではなかなか経験できなかった多くの common disease や急性期疾患に関する画像診断を実際に行うことによって患者様に寄り添い、また、経験とそれに基づいた知識を蓄積していければと考えています。実際に患者様や各診療科の先生方のお役に立てるまでには時間がかかると思われますが、何事も、一つ一つ丁寧な精いっぱい頑張りしたいと思いますので、よろしくお願い致します。

小児科
今村 友彦



小児科として勤務させて頂いています、今村友彦と申します。これまで熊本病院、労災病院、熊本医療センター、市民病院で小児科として勤務し、本年度から市民病院の新生児科として勤務しておりましたが、熊本地震の影響により5月から熊本再春荘病院に勤務させて頂くことになりました。早1ヶ月がたちましたが、小児科の先生方をはじめ他科の先生方、医療スタッフの方々皆様がとても優しく、暖かい雰囲気の中包まれた病院に勤務できることをうれしく感じています。またとても丁寧にご指導いただき、こちらの病院でしか学べないことをたくさん学び吸収していきたいと思えます。たくさんご迷惑おかけすることと思いますが、精一杯頑張らせて参りますので何卒宜しくお願い致します。

